

富山高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	環日本海諸国語Ⅲ(ロシア語)	
科目基礎情報							
科目番号	0209		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	商船学科		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	『ロシア語初級20課』およびプリント						
担当教員	山本 有希						
到達目標							
1)学習した表現を用いて自己紹介ができるようになる 2)学習した表現を用いて、ロシア語で質問に答えることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		主として形容詞、動詞の時制、数詞等について、8割以上正しく答えられる。		主として形容詞、動詞の時制、数詞等について、6割以上正しく答えられる。		主として形容詞、動詞の時制、数詞等の正答率が6割に到達しない。	
評価項目2		上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表が満足にできない。	
評価項目3		ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
MCCコア科目							
教育方法等							
概要		【学習目標】 前年の学習事項を復習しながら、ロシア語学習を進めるとともに、ロシア史やロシア文化への理解を深める					
授業の進め方・方法		教員単独による講義および演習					
注意点		(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を60点とする (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画、評価方法及び評価項目は変更することがある 3)定期試験 (中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)オリエンテーション 2)第1課		1)授業に関する説明を行う 2)あいさつ表現及びアルファベットの音と名称を覚えることができる。		
		2週	第1課 「この人は誰ですか」		強勢とイントネーションについて理解できる。		
		3週	第1課 「この人は誰ですか」		強勢と母音の弱化について理解できる。		
		4週	第2課 「あなたは医者ですか？」		人称代名詞、否定詞нет及び聞き返しの抑揚を使うことができる。		
		5週	第2課 「あなたは医者ですか？」		ロシア語で職業名を言うことができる。		
		6週	第3課 「郵便局はどこですか」		名詞の性別を理解し、動詞第1人称変化を理解することができる。		
		7週	第3課 「郵便局はどこですか」		「知る、読む、～する」などの動詞を使うことができる。		
		8週	第4課 「どこにお勤めですか」		正書法を理解し、名詞を複数形にすることができる。		
	2ndQ	9週	第4課 「どこにお勤めですか」		所有代名詞および指示代名詞を正しく使うことができる。		
		10週	中間試験		既習事項の確認を行う		
		11週	1)試験返却 2)第5課		試験を返却し、解説する。 格変化の考え方を理解する。		
		12週	第5課		場所を示す前置格変化の使い方を理解し、「表面・内部」の表現を用いて場所を説明することができる。		
		13週	第6課		動詞第2人称変化を理解することができる。「～語で話す」という表現を使うことができる。		
		14週	第6課		形容詞の使い方(性数変化)を理解し、正しい名詞と結合できる。		
		15週	期末試験		既習事項の確認を行う		
		16週	成績確認		1)成績評価・確認を行う 2)夏休みの課題の確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3		
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3		
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0